

事業名

あきる野菅生の自然環境保全活動事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200 字以上～300 字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>里地活性化事業〔人材育成系・特産化系（9 回 90 人⇒16 回 318 人）〕、里山活性化事業〔ワークショップ（保全活動と育成）（7 回 210 人⇒7 回 232 人）、自然環境教育（7 回 280 人⇒14 回 400 人）・癒しの森づくり（森林セラピーの場作りと体験）（18 回 180 人⇒17 回 82 人）〕の各事業に取り組んだ。癒しの森づくりのカウンセリングを除き、当初に設定した成果目標を達成した。</p> <p>人材育成系の事業である農業の人材育成講座は、超高齢社会を背景に、余暇活動の充実・参加者の需要が事業とうまくかみ合い、特に、成果が上がった。その反面、カウンセリングは、ストレスの多い社会状況にもかかわらず、事業内容が分かりにくく、市民等への周知がうまくいかなかった。</p>	3
2	市民性	<p>全ての事業に市民が参加して活動を行っている。特に、森づくりのワークショップについては、毎回、地元自治会から 10 名程度が参画し、積極的に意見交換等をしている。</p> <p>また、農業の人材育成講座は、地元の方に講師を依頼し、周辺住民 33 名が受講している。また、特産化農作物の検討、試験栽培については、地元の農家からボランティアで指導や提案などを受けている。</p> <p>その他、環境教育イベントでは、講師の協力やイベント会場の提供等を受けており、森づくりシンポジウムについても、地元の菅生学園の施設の提供を受けている。</p> <p>このように、本協議会の活動は、地域の中で理解され、受け入れられており、市民の積極的な参加も進んでいる。</p>	4
3	波及効果	<p>産学官と地元を巻き込んだ協働による事業運営の形態については、全国初の試みであり、大変先進的な取組といえる。</p> <p>行政による協議体の信頼性確保及び確実な実行、大学による学術的アプローチ、企業による人的供給、地元の NPO 法人による技術支援、機動力のある運営等及び青年会議所の経験と知識の提供など、各者の持ち味を活かした運営により、充実した活動が展開できている。</p> <p>特に、菅生地区を対象に取り組んでいるため、地元自治会の理解と協力は不可欠であり、事業継続の鍵と考えている。</p>	4

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

4	継続性	<p>本事業は、当初より長期的なスパンで計画しており、平成25年度以降も更に事業を充実・発展させていく。</p> <p>そのための土台づくりの期間を3～5年と設定しているため、事業を充実し、軌道に乗るまでの資金調達については課題がある。</p> <p>現在、取り組んでいる特産化農作物については、生産・販売により収益を得るまでに数年の期間を要するため、当面は、構成団体からの負担金のほか、各種財団等からの助成金を確保していく予定である。</p>	3
5	マルチ ステーク ホルダー プロセス	<p>行政が参加することにより信頼性が増し、地元の話し合いなどの参加者が増加した。</p> <p>また、多様な団体が協働して事業を実施することにより、あきる野市内で参加者を募った場合は10名に満たない場合もある草刈り等の環境整備についても、外部からの希望者や組織的に人材を確保することにより、100名以上が参加し、余裕を持った作業が展開できるようになった。</p>	4

合計点

18

ランク

A